



じゅうしょう しんしん しょう

重症心身障がい

重度の身体障がいと重度の知的障がいが重複している障がいです。移動や食事、入浴、排せつ、寝返りなどを自分一人ですることが困難なため、自宅で福祉サービスを受けたり、医療や福祉サービスを提供する専門施設に入所したりしています。また、重症心身障がいの中でも、特に重度の状態を「超重症心身障がい」といいます。呼吸がうまくできないため人工呼吸器を付けたり、口からうまく食べ物を飲みこめないため鼻から胃に管を通して栄養摂取したりしています。

勢 ……自力では起き上がることが困難なため、ほとんど寝たままで。

縮 ……まひなどにより、長期間、自分の意思で手足を動かすことができなくなると、関節の可動範囲が狭くなります。

筋緊張 ……極度に筋肉が緊張し、思うように手足を動かすことができません。

てんかん ……重症心身障がい児の約60～70%の人にてんかんがあります。てんかんは、脳の神経の一部が活発に活動しすぎるために起きる病気です。

誤えん ……口から取り込んだ食べ物や水分をうまく食道に送ることができず、誤って気管に入ってしまいやすいです。その結果、肺炎や気管支炎になりやすいです。

たんの吸引 ……気管切開をしている人や自力でたんを出すことができない人は、介助者などがたんの吸引をする必要があります。



はいりよ
配慮

こんなサポートがうれしい!

介助者と一緒に、優しくコミュニケーションをとってみてください。

重い障がいがあっても、内に力を秘めていて、周りの人に勇気や希望、癒しを与えています。言葉で伝えることは困難ですが、声や身振り、目くばせなど、いつも介助している人であれば分かる手段で気持ちを表現することができます。表現力は弱くても、笑顔で気持ちを伝えます。

移動するときは、困っているように見えたなら、声を掛けてください。

移動するときは、介助者に抱えてもらったり、車いすなどを使用します。本人の体が大きい場合や医療機器を持ち運ぶ必要がある場合、介助者の負担はより大きくなります。少しの距離、段差であっても、移動に人手が必要そうに見えたなら、「何かお手伝いすることはありませんか。」と声を掛けてみてください。

外食するときに、ハサミやミキサーの貸出しがあると助かります。

かむ力や飲み込む力が弱く通常の食事が食べられない場合は、細かく刻んだりトロミを付けたりして食べています。外食するとき、レストランなどで、介助用の取り皿やスプーンに加えて、ハサミやミキサーも用意してもらうと助かります。

移動するときは、広いスペースが必要です。

車いすやバギー(リクライニングできる車いす)、ストレッチャー(寝かせたままで移動できる車輪付きのベッド)で移動するので、駐車場や施設内の通路、エレベーターなどでは広いスペースが必要です。近くを通るときやエレベーターに同乗するときは、配慮してください。

じれい
事例

たと
例えれば、こんなことがあります。

障がいのある人の中には、学校や施設で「ムーブメント教育(療育)」を受けている人もいます。これは、パラ・バルーン(直径3mから8mの円形の軽い布)やスカーフなどの遊具を使って運動したり、周囲の人たちとのかかわりを楽しんだりする学習です。他の児童や介助者と一緒に行動することで、自己主性、社会性などを育んでいます。重い障がいがあっても、自分の意思で行動し、他者とコミュニケーションをとることができることを知ってください。



【相談&問合せ先】

全国重症心身障害児(者)を守る会鳥取県支部

※詳しくは、障がい福祉関係団体一覧(P40)又は相談機関一覧(P42)をご覧ください。

